

二	事業の概要
---	-------

(1) 中長期計画および2024年度事業計画の進捗・達成状況

<「中内学園中長期計画（第四次）2020～2024年度」の達成状況>

1. 教学（教育改革）

・教育内容の質的向上

- ⇒ 留学生就職促進教育プログラム（アジア人材育成プログラム）の説明会を実施し履修推奨科目を共有するとともに、キャリア科目の「オフキャンパスプログラムⅡ」との連携及び、留学生のインターンシップ受講体制の整備を実施。
- ⇒ 「考える学習型」授業についてFD研修会（3回）を通じた啓発活動の実施。（100%・106名参加）
「考える学習型」授業の実施。
引き続きルーブリックの導入及び、ポートフォリオの運用見直しの検討を進める。
- ⇒ 授業改善アンケート回収率34.2%、質問項目見直しおよび結果の活用について引き続き検討。
LMS教員利用率向上 99.0%・104人、今後のFD研修等でLMS利用、ICT利用の促進について引き続き検討を進める。
- ⇒ 各種国際交流イベントの実施（4件、新規5件 達成率100%）、留学生の活躍機会提供（日本語学校大学連携プログラム10件、達成率142.9%）、国際交流活動の活発化を行い、留学生の活躍を外部に発信することで、外部評価を高め募集を促進する。
- ⇒ 3館（中内功記念館・ダイエー資料館・キャッシュレジスター博物館）の見学者増により、功氏の理念、功績の伝承継続。2024年度各館見学者数 記念館1,297名 資料館1,507名 博物館433名、団体・研修見学19件（2023年度各館見学者数 記念館1,052名 資料館1,316名 博物館573名）。阪神大震災特別展示等の新たな展示及びホームページでの紹介実施。

・夢の種プロジェクトの進化

- ⇒ 地元企業（兵庫・大阪）との年間接触数のべ640社、中四国地方企業との年間接触数のべ105社により地元企業・中四国企業との更なる関係強化を図る。
- ⇒ 初年次WGにより気づきの教育（自己発見とキャリア開発A/B）の新プログラムの導入準備及び調整完了、担当教員の研修会実施。
- ⇒ 2025新カリキュラムにおける研究演習募集方法について引き続き調整。専門基礎演習のクラス担当教員による個々の学生の情報把握および指導体制を確立し、2025年度からの実施決定。
- ⇒ 有朋会の活性化と大学、在学生との関係強化。気づきの教育等における在学生向けの講演協力（卒業生26名）、就職支援行事における卒業生によるサポート実施、2024年度有朋会賞受賞4名。

- ・退学・除籍者数減 2024 年度目標 3.5%（退学・除籍者数 130 名以下）
 - ⇒ 退学除籍率 4.0%、退学・除籍者数 144 名（2023 年度 3.9%・147 名）
 - 1 年生の退学、除籍者数 25 名（2023 年度 17 名）
 - ・課外活動団体への加入促進 クラブ加入率 40.2%（2023 年度 33.5%）、サークル加入率 26.3%（2023 年度 22.7%）。学内表彰制度（飛翔賞・奨励賞）告知によるモチベーション向上（受賞件数奨励賞 11 件、飛翔賞 個人 55 件・団体 8 件、中内賞 1 件、流通科学大学賞 9 件、特別賞 2 件。）
 - ⇒ 学生寮内の更なる国際交流促進を伴う寮生の成長を促す施策の展開。
 - ・ユニットリーダーを中心とした各ユニット内の交流企画実施。年間 8 回、参加延べ人数 295 名（前年 210 名）
 - ・寮内の交流促進の一環として、ユニットリーダーへの指導を兼ねた定期的な意見交換実施（10 回）
- ・修士課程ならびに博士後期課程における定員充足率の向上
 - ⇒ 修士課程 20 名（2025 年 4 月入学者数）
 - 博士後期課程 0 名（2025 年 4 月入学者数）

2. 教学（大学戦略）

- ・全学的なマーケティングの浸透に向けて
 - ⇒ 図書館及びメディアセンターの利用率向上。図書館来館者数 年累計 58,426 名/目標 61,933 名 達成率 94%、メディアセンター来館者数 年累計 36,784 名/目標 37,337 名 達成率 99%。
SNS を通じた情報配信、イベント実施、公式パンフレットや利用案内動画の作成、ガイダンスや演習を通じてのアプローチ等を積極的に実施。
 - ⇒ 学長・副学長・学長室・教学部及びキャリア支援部の部長職が参加する執行部 MT を月 1 回開催し、情報共有を行い、入試・教学・学生支援・就職までの一貫性の向上を図った。
 - ⇒ 社会共創プログラムに参画する各学部専任教員の比率 商：22.7%、経済：15.4%、人間社会：33.3%
学生の参加率 （2 年生）商 23.3%、経済 8.4%、人間社会 37.3%、（3 年生）商 30.6%、経済 19.2%、人間社会 35.2%
- ・高大連携の深化
 - ⇒ 高大連携企画実施（明石商業、相生産業、神戸鈴蘭台、須磨友が丘、伊和）。（5 校／目標 5 校 達成率：100%）
 - ⇒ 2024 年度スピーチ朗読コンテスト（高校 10 校、日本語学校 3 校。参加者数 52 名、引率教員数 23 名）
 - ⇒ 高校（日本語学校）大学連携プログラム（10 件/目標 7 件以上 達成率 142.9%）

3. 教学（内部質保証システムの推進）

- ・教学・人事・施設・財務の重点項目を実施、「中内学園中長期計画（第四次）2020～2024 年度」の大目標を達成することに寄与する内部質保証システムを再構築する
- ・内部質保証の推進に責任を負う組織を整備し、大学全体として整合性のとれた内部質保証体制を構築する
 - ⇒ 7 年に一度の認証評価に備えて、大学基礎データを収集するとともに、各種データを参照して自己点検評価報告書の作成を実施。
 - ⇒ 「教育の質に係る客観的指標」の 84%（44 点満点中 37 点）充足達成。
 - ⇒ 2024 年度研究費不正件数 0 件、コンプライアンス教育の実施（全教員 100%参加）、内部監査実施により公的研究費の不正防止施策の継続実施。

4. 人事

- ・教育力を最大に伸ばすための評価制度構築・実施
 - ⇒ 新任教職員に対する教育・研修を実施。個人情報保護委員会、コンプライアンス委員会、危機管理委員会等の各種委員会開催し、事例に対する迅速な調査対応・再発防止を行う。
コンプライアンス・個人情報保護通報による年間の処分案件 0 件。
 - ⇒ 教員表彰制度 2024 年度 グループ表彰 1 グループ、個人表彰 5 名。
- ・中期推移による教職員数動向を把握した採用計画実施
 - ⇒ 正職員 62 名体制を想定し、2024 年度人件費予算に基づいた適正な人員管理と人件費シミュレーションを実施。
2024 年度の職員新卒採用者 2 名、中途採用者 7 名。2025 年教員採用 6 名、基準教員数を満たす採用を実施。
 - ⇒ 大学設置基準改正に伴う基幹教員制度の検討継続。
- ・職員のキャリアディベロップメント構築と実施
 - ⇒ SD 実施 専任教職員 100%参加、勉強会 4 回実施 正職員の 74.2%が 1 回以上参加、階層別研修 3 回実施（担当者 2 回、管理職 1 回）、教育講座の受講料援助制度 申請者 6 名。
 - ⇒ 2025 年 4 月からの新人事制度の本格運用にむけ、評価制度の周知徹底を継続実施。
教員評価の改訂についても 2026 年度からの運用開始に向け準備継続。
 - ⇒ ハラスメント防止対策委員会の開催（年 2 回）、SD 実施（1 回）によるコンプライアンス対策実施。
 - ⇒ 労働条件審査指摘事項の改善及び、働き方改革法への対応を踏まえた既存の仕組みの見直しにむけ、原案作成継続。

5. 施設

- ・単年度事業計画・予算に基づく施設設備メンテナンス
- ・単年度事業計画・予算に基づくシステムの安定運用およびリプレイス

⇒教育の質向上のための施設・インフラ整備について、計画に基づき全て完了。

(施設)

- ・RYUKA DINING 壁面改修
- ・RYUKA DINING 入口側約 200 席のリニューアル実施
- ・講義棟Ⅱ・研究棟Ⅱ：揚水ポンプ更新
- ・講義棟Ⅲ・研究棟Ⅲ・講義棟Ⅴ：タイル打診調査（10 年法定点検）
- ・講義棟Ⅲ・研究棟Ⅲ：高架水槽更新
- ・講義棟Ⅴ・研究棟Ⅴ：空調工事第 6 期

(システム)

- ・大学 HP、N-SYSTEM、Workflow、有朋会システムの構築を完了
- ・学内全館無線 NW 化対応

⇒ 附属図書館における図書・雑誌の管理精度向上。全蔵書点検実施。洋書の整理実施（年累計 664 冊）。

6. 財務

- ・単年度キャッシュフロー、プラスの継続および事業活動収支の均衡を達成するための経費コントロールの実施

⇒ ・人件費比率（人件費／経常収入）47.2%（目標値 44.0%）（前年度 46.3%）

・教育研究経費比率（教育研究経費／経常収入）46.8%（目標値 45.0%）（前年度 44.8%）

・管理経費比率（管理経費／経常収入）11.8%（目標値 10.0%）（前年度 11.6%）

・経常収支差額比率（経常収支差額／経常収入）△5.8%（目標値±0.0%）（前年度△2.7%）

2024 年度単年度のキャッシュフローは 142,594,781 円（前年度 22,718,508 円）（前年度比 627.7%）。経常収支差額は△268,131,489 円（前年度△126,797,890 円）（前年度比－）

・新たな収入源確保

・寄付金収入 73,933,000 円（2023 年度 93,908,000 円）（前年度比 78.7%）

・補助金収入 579,574,406 円（2023 年度 570,738,200 円）（前年度比 101.5%）

・資金運用収入 66,277,551 円（2023 年度 23,964,719 円）（前年度比 276.6%）

⇒ 補助金交付額（修学支援新制度分は除く）343,911,000 円（昨年度 310,207,000 円）。

<2024 年度事業計画 達成状況>

※2024 年度事業は、「中内学園中長期計画（2020～2024 年度）」の重点項目に基づく、単年度の事業計画であり、奨学金に頼らない磐石な学生募集力とオンリーワン・ナンバーワンの教育力構築を実現するためのものです。

【大学部門】 学生満足度の向上 学生満足度調査結果に基づく 3 つの指標（学生生活・教学・就職）

1. 内部質保証高度化推進、IR 体制の整備と教育体制の質的改善・向上に向けた活用

入試・教学・学生支援・就職サポートの一貫性の向上

⇒ 7 年に一度の認証評価に備えて、大学基礎データを収集するとともに、各種データを参照して自己点検評価報告書の作成を実施。

教育体制の質的改善・向上に関し、教育審議会を通じて審議を重ね、結果として「教育の質に係る客観的指標」を改善。

⇒ PROG テスト受験（前期 1 年生レギュラークラス 31 クラス 661 名、後期 1 年生留学生クラス 10 クラス 163 名及び 3 年生希望者 637 名）、教員向け説明会、学生向け説明会実施。

1 年生の受験結果を受け、高等教育推進センターにおいて結果分析、教育審議会に教学マネジメントの一環として結果活用の提言を実施。

2. 夢の種プロジェクトの進化、気づきの教育の再構築

新コースを円滑稼働するための体制の構築

⇒ カリキュラム改訂プロジェクトからの決定事項に基づき、カリキュラム開講期、履修系統図、ナンバリング、カリキュラム・マップ等の調整を、教務委員会を通じて実施・確定し、学生向けの公表完了。

⇒ 2024 年度の授業評価について、数理・データサイエンス・AI 教育専門部会にて、自己点検評価を実施。評価報告書を作成し、教務委員会および教育審議会の承認を経て、大学 HP に掲載。

3. 入学定員 900 名の確保・収容定員 3,600 名の充足

教育内容と連動した入試制度への転換、入学試験と連動した奨学金への再構築

⇒ 2025 年度入学者数：844 名（昨年度：860 名）

総合型選抜 240 名入学（A0113 名、クラブ 65 名、公務員 A06 名、グループワーク 26 名、プレゼンテーション 8 名、外部英語試験利用型 2 名、資格利用型 20 名）、学校推薦型選抜 207 名入学（公募 45 名、指定校 150 名、商業学科・総合学科 12 名）、留学生 303 名入学、一般選抜 93 名入学（一般 84 名、共通テスト利用 9 名）、社会人入試（後期型）1 名

2026 年度入試制度（授業体験型入試）の新設及び一般入試の「傾斜配点タイプ」及び「均等配点タイプ」の採点に対応したシステムメニューの追加等、準備完了。奨学金制度の整備実施。

4. 退学・除籍率減 3.5% (2024 年度目標数値)

中退予防に向けた学生の傾向把握と早期取り組みの実現と留学生対策

⇒ 退学除籍率 4.0%、退学・除籍者数 144 名 (2023 年度 3.9%・147 名)

1 年生の退学、除籍者数 25 名 (2023 年度 17 名)

退学除籍の要因分析のためのデータ集積、退学面談時のアンケートによる定性分析の実施、関連部署と連携し面談実施、クラブ特別入試入学者の退部・退学の抑制、学生支援室による退学抑制実施。

学生生活を通したルール・マナーの修得

⇒ キャンパスルール・キャンパスマナーの説明徹底、啓発活動の実施。(16 回)

職員から学生への挨拶を日常化し、学生の挨拶意識を醸成。

課外活動におけるルール・マナーの修得推進及び、所属学生によるクリーンキャンペーンの強化及び自主的なクリーンアップの促進。(前期 18 回、後期 20 回)

通学ルール・マナーの遵守、禁煙ルールの徹底 (禁煙誓約書提出率 100%・921 人)

留学生支援の強化

⇒ 留学生中退率 2.5% (26 名(退学 12 名、除籍 14 名)/1,051 名中)

・経済支援 (奨学金資格者への支援) 35 件 (前年比 175.0%)

・RYUKA 留学生クラブ加入率 99.4% (317 名/319 名)。学内団体 (初年次クラス、ゼミ、課外活動団体) への加入促進、先輩、後輩、友人など人的ネットワークの構築支援等、帰属意識の向上を図る。

・在籍確認ルールの厳格化 (年間平均在籍確認率: 86.4%)、低単位面談等のアフターフォロー (前・後期実施率 95.6%(年間実施者数計 129 名/対象 135 名)) 等により学習意欲向上を図る。

・交流イベントを多数増加し、満足度向上を図る。(授業期間中のイベント実施率 100%)

5. 進路決定率の向上 89% (2025 年度目標 90%)

学生のニーズに対応した指導体制 (地元・首都圏・中四国企業への就職支援)

⇒ 日本人学生の進路決定率 88.8% (2023 年度 84.8%)

就職支援行事の実施、教職協働による就職サポートによる進路決定率促進。

⇒ 就職目標企業への就職者数 12 名 (2023 年度 15 名)、就職重点企業の就職者数名 26 名 (2023 年度 27 名)

留学生に特化した支援体制の充実

⇒ 留学生就職促進教育プログラム認定制度の促進 (履修者 30 名、修了者 24 名、就職決定者 26 名)

日本語向上のための課外講座を充実し、2024 年度 N1 合格 30.1% (学部卒業生 N1 相当 65 名/216 名)

インターンシップ科目及び、キャリア科目の留学生クラスの設置調整。2026 年度以降履修可能科目として登録。

奨学金・授業料減免の状況調査書アンケートにより提出者全員の進路希望状況を把握、就職ガイダンス・マッチングセミナー等参加率向上。

【法人部門】私立学校法改正に伴う寄付行為の変更と規則規程の見直し

1. 新人事制度の定着

中期推移による教職員動向を把握した採用計画と実施

⇒ 正職員 62 名体制を想定し、2024 年度人件費予算に基づいた適正な人員管理と人件費シミュレーションを実施。

2024 年度の職員新卒採用者 2 名、中途採用者 7 名。2025 年教員採用 6 名、基準教員数を満たす採用を実施。

⇒ 大学設置基準改正に伴う基幹教員制度の検討継続。

2. 経常収支均衡化、単年度キャッシュフロー均衡化

⇒ ・人件費比率（人件費／経常収入）47.2%（目標値 44.0%）（前年度 46.3%）

・教育研究経費比率（教育研究経費／経常収入）46.8%（目標値 45.0%）（前年度 44.8%）

・管理経費比率（管理経費／経常収入）11.8%（目標値 10.0%）（前年度 11.6%）

・経常収支差額比率（経常収支差額／経常収入）△5.8%（目標値±0.0%）（前年度△2.7%）

2024 年度単年度のキャッシュフローは 142,594,718 円（前年度 22,718,508 円）（前年度比 627.7%）。

経常収支差額は△268,131,489 円（前年度△126,797,890 円）（前年度比－）

⇒ ※比率は全て決算終了後確定

中長期計画ロードマップに明記された重点項目の予算執行状況について

< 予算執行額：円／2024 年度科目予算：円（予算執行：%） >

教室改修 22,913,248 円／ 26,700,000 円（85.8%）

施設設備関連 506,627,919 円／613,454,000 円（82.6%）

システム関連 217,471,432 円／239,075,000 円（91.0%）

奨学金 留学生 349,085,410 円／340,556,000 円（102.5%）

日本人 326,783,410 円／418,279,000 円（78.1%）

3. 広報戦略の再構築、学園・大学の認知度アップ

・インスタフォロワー 1,409 件（114.8%達成）

・インスタ投稿 52 件（55.2%達成）

・X フォロワー 2,354 件（96.1%達成）

・X 投稿 175 件（70.9%達成）

・Facebook 投稿 126 件（52.9%達成）

・リリース配信 12 件（54.1%達成）

・YouTube 投稿（りゅうか通信等） 6 件（38.8%達成）

4. 施設保全 5 か年計画の推進、システム整備 5 か年計画の推進

⇒ 教育の質向上のための施設・インフラ整備について、計画に基づき全て完了。（システム）

⇒ 大学 HP、N-SYSTEM、Workflow、有朋会システムの構築を完了

⇒ 学内全館無線 NW 化対応

⇒ データサイエンスコース PC 環境整備

⇒ 情報セキュリティ体制の構築及び情報セキュリティ委員会の運営体制の構築を行い、情報セキュリティ対策の強化を図る。

5. 単年度事業計画の進捗管理、中長期計画（5 か年）の策定

新規事業考察

⇒ 中長期計画（5 か年）策定及び、新規事業考察における中長期計画の 1 項目としての次年度事業計画策定完了。

⇒ 理事会・評議員会の円滑な運営及び単年度事業計画の進捗管理の徹底